

心はひとつジュニア!

ミニバスケットボール
ジュニア・ファイブ

わたしたちはミニバスケットボールのクラブチームです。会員は、男子が小学1年から5年まで22人、女子が3年から6年まで21人です。

現在、成田にはミニバスのクラブは4つありますが、ジュニア・ファイブは中でも一番歴史が古く、こととして20周年を迎えました。子ども会中心のチームとして発足した当初は、玉造地区の児童だけでしたが、今は、豊住や久住からも参加している人がいます。

練習は、火・水・土・日曜日(水曜日は隔週)に、玉造小や神宮寺小の体育館で行っています。指導してくれるのは、男子は川崎利三監督、女子は井坂洋子監督。ほかにモックラフ創設者の新井明美さんを始め、たくさんの方が教えてくれます。



ガードをかわしてシュート

もちろんだ
ど、あいさ
などがきち
とできる規
を身に付け
さい、「自分
のことだけ
なく下級生



練習は厳しいけれどバスケが大好き

指導もできるよつになさい」と
厳しい言葉が飛んできます。

今、わたしたちの目標は、2月に開かれる印旛郡の新人戦で、男子は優勝、女子はベスト4に入ることです。試合前の合言葉「心はひとつジュニア!」の通り、チームワークに磨きをかけて、がんばりたいと思います。応援してください。



ゴールを目指せ!

なかまと一緒に

ひとつのものを 作り上げる喜びが

友禅くずみ

わたしたちは公民館主催の手描き友禅教室からその魅力に引かれ、平成7年度から活動しています。毎月第1・3水曜日に、久住公民館で秀島裕子先生に教えていただいています。

本格的な友禅染は20を超える工程があり、わたしたちには難しい作業です。しかし、下絵をあらかじめ用意しておき、顔料を塗って乾いたらアイロンで熱を加えることで、色を生地に定着させる手法が出来たので、絵心が無くても、だれにでも友禅染が身近に出来るようになりました。

作品はTシャツ・ふろしき・



一心不乱に



根気がいるけど、好きだから

手さげ袋・額絵などで、皮製品以外の素材でしたらほとんど可能です。作品を完成させるにはかなりの根気と集中力が必要です。特に顔料が乾く前にいかに色を入れていくか、ボカシ具合をどうするかがポイントです。伝統工芸の憧れやその美しさに引き込まれ、気がついたら何年もやっていました。出来上がったときの達成感と充実感は何とも言えませんが、自分にしかない色づかいで、オリジナルな物ができ、プレゼントとしてもとても喜ばれています。



完成したときの達成感が一番です



馬ソリや スキーで学校へ

神数律子さん（西三里塚）



わたしのふるさととは、岩手県北上市です。西側には奥羽山脈があり、市の中央を北上川が流れています。わたしの子どもたちは冬に雪がたくさん降りましたので、馬ソリやスキーで学校へ通いました。

父は、冬の間に移住に出ていました。食事の支度や掃除など家のことはすべて子どもの仕事で、学校の帰りが遅くなるとよくしかられました。雪のある戸外に投げ出されたこともあります。父はとても厳しい人で、テレビドラマの寺内貫太郎にそっくり。おこつて食事のお膳をひっくり返すシーンはまさにわが家そのものでした。父に逆らったことはなかったと思いますよ。

食事の材料はほとんどが自給自足。米や野菜、ニワトリ、卵などは自家製です。近くの川には、ウナ



居間、土間、馬屋が続く南部曲がり家

ギ、ナマス、ドジョウなどがたくさんいましたので、食べたくなったら川に捕りに行くという感じでした。

成田に来たのは昭和50年。もう27年になります。ここは周りが畑のせいか、風が吹くと家の中がほこりっぽくなります。特に空が畑の土で真っ赤になる「春一番」には、びっくりしました。年に一度はふるさとに帰りますが、何となく心が落ち着きます。成田に住んでいる期間の方がずっと長いのに、不思議ですね。

ふるさとトーク 岩手県北上市

ひろば



こんにちは
赤ちゃん

榊原 友麻ちゃん（橋賀台）



原 瑞起ちゃん（御所の内）

スクスク のびのび

竹井健太郎くん（4歳） 廻護台
茜子ちゃん（1歳）

ブロック遊びと外遊びが大好き。すべり台やブランコ、ジャングルジムで遊んだ。寒くたって平気だよ。何でも食べるからいつも元気いっぱい。4月からは幼稚園。友達たくさんできるかな。



ペット大好き



池田優子さん（中台）
シェリー（メス）

犬を飼うのは初めてだったので、しつけ方教室へ出掛けたり、犬を飼っている方にアドバイスをもらったりしました。とても健康ですが、定期的に健診を受けて、健康管理に気を付けています。